

「人間・吉田松陰に学ぶ」学習会 ＝幕末の動乱期に 29 年の生涯を 信念を持って行動し燃焼した人生！＝

松蔭大学「吉田松陰教育研究センター 客員教授 長谷川 勤 先生による「吉田松陰」の生涯と活動についてお話をお聞きしました。



幕府の権威が弱まり、アメリカから開国も迫られる中で、日本の社会が動乱し、大きく変わっていく中で吉田松陰は活躍し、時代をになった下級武士達に影響を与えました。

兵学者、思想家、革命家そして教育者として山口県萩に「松下村塾」をひらき高杉晋作、久坂玄瑞、山県有朋、伊藤博文、品川弥二郎などの塾生（門下生約 100 名）を育てました。

吉田松陰は安政の大獄下で斬首されましたが門下生の半数が明治まで生き延び活躍しました。

(時代の背景)

(日本)	(世界)
1853 年 ベリー艦隊来 航、開国を要求	1850 年代の英・仏などは産業革命を成し遂げ、市場を求め全世界に進出、植民地化を進めた。欧米諸国が日本、中国などに向け開国を迫っていた。
1854 年 吉田松陰、下田で密出国くわだて失敗	1858 年 第 2 次アヘン戦争、英・仏による中国の植民地化
1856 年 ハリス来航、幕府は圧力に屈し 58 年に日米通商条約締結	1861 年 米、南北戦争
1859 年 安政の大獄で吉田松陰ら刑死	1863 年 リンカーン奴隷解放宣言
1863 年 高杉晋作奇兵隊編成 65 年に挙兵、倒幕へ	1871 年 パリコンミュン
1868 年 戊辰戦争をへて江戸開城、明治へ	

時代は変わっても、違った形で政治、経済、社会は揺れ動いています。

吉田松陰が残した名言の一部が紹介されましたが、今の時代にも通じるものがあります。

(紹介された松陰の心を打つ名言から)

- ①かくすればかくなるものと知りながら已むに已まれぬ大和魂。(下田踏海)
- ②親思ふところにまさる親ごころけふの音づれ何ときくらん(父叔兄宛)
- ③我れを哀しむは我れを知るに如かず。
我れを知るは吾が志を張りて之れを大にするに如かざるなり(諸友宛)
- ④身はたとひ武蔵の野辺に朽ちぬとも留め置かまし大和魂(留魂録)
- ⑤死して不朽の見込みあらば、いつでも死ぬべし。
生きて大業の見込みあらば、いつでも生くべし。
(高杉晋作宛書簡)
- ⑥萬巻の書を読むに非ざるよりは、寧んぞ千秋の人たるを得ん・・・(松下村塾聯)
- ⑦松下陋村なりと雖も、誓って神国の幹とならん。
(村塾の壁に留題す)
- ⑧世の人はよしあしごともしはばいへ賤が誠は神ぞしるらん(回顧録)

(参加された方の感想文から)

*長谷川先生ありがとうございました。

この時代、人物が多数登場し複雑です。それ故に興味がつきないと言えらると思います。

わずか 29 年の短い生涯の吉田松陰がこれほどまでに人を育てたことに目を見張ります。

私は読書が大変苦手ですが、先生にかみ砕いてお話をいただき大変興味深く拝聴いたしました。

現在「維新」を名乗る人がいますが、彼らには学問が感じられません。

松陰がこの時代に生きていたら高笑いされたのではないのでしょうか。

又、この機会をお願いしたいものです。

＝学習会には 23 名の方が参加しました、ありがとうございました。＝